

R RIVIERA

リビエラライフのためのマガジン

26

NO.

2025



表紙:75年の歴史を見守る緑豊かな都会の杜
リビエラ東京(池袋)

発行
株式会社リビエラ
編集・制作
リビエラマガジン編集部
〒107-0062
東京都港区南青山3-3-3
リビエラ南青山ビル
TEL. 03-5474-8120
www.riviera.co.jp

広告のお問合せ先
リビエラマガジン編集部
TEL. 03-5474-8120

CHIEF EDITOR
渡邊 華子

EDITOR
内村 朱希
石井 小百合
木村 恵子

PHOTOGRAPHER
中嶋 一成 (P4-8)

FEATURES

- 4 ロレックス・スワンカップ 2024
- 12 料亭「白雲閣」からリビエラ東京
75年の歩み
- 16 リビエラチャリティガラパーティー2024

TOPICS

- 18 湘南リゾートで味わう上質なショーケース

COLUMN

- 8 レジェンドに捧げる夜

※本誌に掲載している情報、日程、
営業日、営業時間、料金などは予告
なく変更される場合がございます。
最新情報は各ページに記載されて
いますwebサイトをご覧ください。

海とアートで世界とつながる

湘南国際芸術祭

2025.1/26(日) 10:00~ 入場無料/申込者限定
@リビエラ逗子マリーナ

フォーラム第1部・基調講演 要申込

建築家

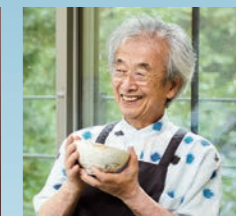
隈 研吾氏
「建築家と海」



登壇
決定

フォーラム第2部・トークセッション

- ・工芸家 日本芸術院会員 宮田亮平氏
 - ・彫刻家 日本芸術院会員 神戸峰男氏
- 最新情報はHPにて



アート & ガストロノミー 要申込

湘南国際芸術祭にちなんだアフターランチ。豊か
で持続可能な湘南の食を、リビエラ逗子マリーナ
料理長 伊藤が表現します。

3,900円(税込) ※申込者はフォーラムの良席確保を確約
※席数限定、定員になり次第締切

アート&クルージング 要申込

湘南国際芸術祭のシンボリックアイコンの富士山と、
“動くアート”ともいうべき湘南の自然をぜひ
クルージングでお楽しみください。

9,900円(税込) ※申込者はフォーラムの良席確保を確約
※最低催行人数6名、先着順

リビエラ逗子マリーナ

JR鎌倉駅東口より京急バス鎌40「逗子・葉山駅」小坪下車徒歩7分
朝比奈ICより車で約15分
主催：湘南国際芸術祭実行委員会

お申込み
WEBSITE



Rolex Swan Cup

ロレックス・スワンカップ 2024

2024.9.17-21



サルディニアが持つ特別な魅力

イタリアのサルディニア島は、コバルトブルーやターコイズブルーに輝く美しい楽園です。ハイグレイドなバカンスを求めセレブが訪れる地中海でも、特別な地として知られています。

特に、35マイル(約56km)の複雑に入り組んだ海岸線が特徴的な「コスタ・ズメラルダ」は、原生の自然を保護しつつ伝統と自然美の融合にこだわった高級リゾートです。その中心地「ポルト・チェルボ」は最上級のリゾート地として知られるだけでなく、ヨット文化の聖地としても名高い場所です。この地で2年に一度開催される「ロレックス・スワンカップ」は40回を数え、この大会は世界中のセーラーにとって夢の舞台でもあります。

ここには、世界三大ヨットクラブの一つ「ヨットクラブ・コスタ・ズメラルダ」と、世界中のシーマンが憧れる「マリーナ・デイ・ポルト・チェルボ」が佇んでいます。クラブのインテリアは、コスタ・ズメラルダ一帯の創設者

アガカン4世の私藏品が設えられ、クラブメンバーたちによって大切に扱われています。この特別な趣はリビエラ逗子マリーナにも通じており、リビエラ会長 渡邊の私蔵の調度品を設えたマリーナラウンジでは、訪れる方々に特別なひとときをご提供しています。

SWANが紡ぐ世界トップのヨット哲学

「いつかはSWAN」というキーワードが世界中のヨット愛好家の間で語り継がれ憧れるSWANは、フィンランドのナウター・スワン社製の「安全で快適な長距離航海」を追求し、フラットなデッキ、美しいライン、シンプルな操作性——どれも取っつきやすく、オーナーに最高の体験を約束します。

海とともに未来へ向かうリビエラの新たなステップ

2016年よりSWANの日本独占販売総代理店を務めるリビエラでは、SWANを体感し価値を実感していただくとともに、海の文化の発展に努めています。

のトップセーラーが集う名誉ある舞台へのこの挑戦は、競技への単なる参加に留まりません。SWANワールドの集大成としての「コミュニケーション」を実体験できたことは、リビエラの重要なステップとなりました。

現地でチャーターしたSWAN 68「DeFance」は30年の歴史を持つモデルでありながら、最新技術を搭載した新艇にも劣らぬ輝きを海上で放ちました。SWANは単なる所有物ではなく、新しいオーナーに受け継がれながら愛され続ける、セーラーにとって家族のような存在だと改めて実感しました。



5日間にわたるレースは、風光明媚な島々を回航する独特な「アイルランドレース」形式。夕方からは毎晩深夜までパーティーが開かれ、家族や仲間との交流が、レース以上に特別な価値として捉えられています。このような海での欧米文化が広まることで、日本での船や海の文化がより豊かになる可能性を感じずにはいられません。

リビエラが果たす使命と次なる挑戦

SWANが築くコミュニティは、セーラー同士の絆や友情をはぐくむだけでなく、一人ひとりの環境



リビエラグループでは、会長 渡邊のリーダーシップの下、社員から選抜されたクルーによるセーリングチームを社内にて結成。最新鋭モデルSWAN 58「クオリア・リビエラ」でのトレーニングを

保護への意識を高める役割も果たしています。

リビエラと同様に、国際環境認証ブルーフラッグを有する「マリーナ・デイ・ポルト・チェルボ」では、ブルーフラッグマリーナのメンバーであることの価値が誇りとして語り継がれ、ブルーフラッグに対する敬意が深く持たれています。加えて、個々の積極的な環境活動への参加がコミュニティを支え続けていました。

私たちリビエラは、「ロレックス・スワンカップ」を通じて「海と共に生きる」シーマンシップに触れ、次世代に引き継ぐ責任を強く感じ



重ねています。

昨年9月には、ナウター・スワン社オーナーのフェラガモ氏の招待を受け、「ロレックス・スワンカップ2024」にリビエラとして参加、レースにも参戦しました。世界中

ました。そして、世界のセーリング文化や哲学、コミュニケーションを日本に根付かせ、海と共に未来を切り拓きたいと切に感じました。今年、リビエラは日本で「Riviera Swan Asia Regatta」を開催することを決定しました。この大会は日本の海洋文化に新たな価値をもたらし、世界中のセーラーが集う場となることでしょう。皆さまと共に新たな物語を紡ぐ日を心待ちにしています。

Riviera Asia Swan Regatta

2025年11月

リビエラ逗子マリーナで開催決定!

詳細はHPにて随時発表



レジェンドに捧げる夜

リビエラグループ 代表取締役会長

渡邊 昇

「Mr.ワタナベ、最も大切なのはコミュニケーションだよ」

その夜、尊敬する友人の言葉の真意が、私はわかったような気がしました。そして、はるばる飛行機を乗り継ぎ、イタリアのサルディニア島までやってきた意味を噛みしめました。

世界のセーラーが憧れるコスタ・ズメラルダの「マリーナ・ディ・ポルト・チェルボ」で開催された「Rolex Swan Cup」。この歴史あるレガッタの参加資格は、SWANを所有するエクスクルーシブなメンバーです。普段、ヨーロッパを中心に世界各地に散らばっている彼らは、2年に一度開催されるこの特別なイベントのために休暇を取り、プライベートジェットに乗って、この地中海の小島にやってくるのです。

「ヨットクラブ・コスタ・ズメラルダ」のクラブハウスで、特別なパーティーが始まりました。大会4日目の夜に行われた「オーナーズパーティー」は、招待されたSWANオーナーとそのファミリーおよそ500人が一堂に会する特別な時間です。中にはセーリング界で偉大な功績を残す英雄ポール・ケイヤー・ド氏の姿もありました。驚くのは世界中のメディアも招待されていて、私も英国の国営放送「BBC WORLD」にアジア代表として密着取材を受けました。私は初めての参加でしたが、ヨットと海をこよなく愛する者たちの夜の集いは、どこまでも華やかで情熱的、そして厳かでした。

そのパーティーの壇上、集まった人々の視線を一身に集めていたのが、私をこの旅に誘ってくれた友人でナウター・スワン社の会長レオナルド・フェラガモ氏でした。

この日の夜は、フェラガモ氏のひとり舞台と言っても過言ではあり「ヨットクラブ・コスタ・ズメラルダ」のクラブハウスで、特別なパーティーが始まりました。大会4日目の夜に行われた「オーナーズパーティー」は、招待されたSWANオーナーとそのファミリーおよそ500人が一堂に会する特別な時間です。中にはセーリング界で偉大な功績を残す英雄ポール・ケイヤー・ド氏の姿もありました。驚くのは世界中のメディアも招待されていて、私も英国の国営放送「BBC WORLD」にアジア代表として密着取材を受けました。私は初めての参加でしたが、ヨットと海をこよなく愛する者たちの夜の集いは、どこまでも華やかで情熱的、そして厳かでした。

そのパーティーの壇上、集まった人々の視線を一身に集めていたのが、私をこの旅に誘ってくれた友人でナウター・スワン社の会長レオナルド・フェラガモ氏でした。この日の夜は、フェラガモ氏のひとり舞台と言っても過言ではあり「ヨットクラブ・コスタ・ズメラルダ」のクラブハウスで、特別なパーティーが始まりました。大会4日目の夜に行われた「オーナーズパーティー」は、招待されたSWANオーナーとそのファミリーおよそ500人が一堂に会する特別な時間です。中にはセーリング界で偉大な功績を残す英雄ポール・ケイヤー・ド氏の姿もありました。驚くのは世界中のメディアも招待されていて、私も英国の国営放送「BBC WORLD」にアジア代表として密着取材を受けました。私は初めての参加でしたが、ヨットと海をこよなく愛する者たちの夜の集いは、どこまでも華やかで情熱的、そして厳かでした。



ませんでした。

というのも、今回は「Rolex Swan Cup」40周年。その節目の大会の前に彼は、自らが20年をかけて創り上げたブランドを売却し、新しいオーナーに譲渡するという決断を発表したのです。そして、この夜、売却相手である新オーナーが紹介されることになっていました。

オーナーとしての最後のスピーチは圧巻でした。私の知る彼は、人懐っこい少年のようで、屈託のない笑みを浮かべながら話します。しかし、この夜は、真剣そのものでした。彼はSWANを育て上げてきた歳月を愛おしむかのように、静かに語り始めました。ビジネス以前にひとりのセーラーとして、いかに自分がSWANを愛しているのか。そして、それを手放すことが、どれほど苦渋の決断だったのかを、時折ユーモアも交えながら、イタリア訛りの英語でとうとうと語るのです。

こそ、その言葉の意味を深く理解することができました。そんな彼が今度はサルディニアに來ないかと言うのです。それは同時に「Rolex Swan Cup」への招待でもありました。しかし、年齢のことだけを考えてもそう簡単に返事はできません。毎週SWANで相模湾にセーリングに出ているとはいっても、世界最高峰のレースに出場するためには、クルーを育てる時間も必要です。

当初、その誘いを一度は断念しました。すると、すぐに彼からメールが届きました。そこには、「もし渡邊さんのご家族やクルーである社員の方が参加できるのであれば、それは間違いなく大きな意味を持つことになるでしょう」と書かれていて、最後にこう締めくくられていました。

This event is in fact such a pinnacle in the life of the Swan world and it would be so important to share it with those people who love our Company and represent it in different part of the world.

（和訳：このイベントは、SWANワールドのハイライト。SWANを愛する世界中のオーナーらが、一堂に会してその価値を分かち合うことができればと思います。）

私は「よし、行くぞ」と覚悟を決めました。それが大会のおよそ1年半前。そこからこの大会に出場するための様々な準備を経て、私はサルディニアにやってきたのです。オーナーズパーティーの夜、私たちが案内されたテンプルは、地中海を臨む素晴らしい席でした。そこからフェラガモ氏の渾身のスピーチを眺めていたのですが、彼が私に見せたかったのはこれだなどすぐに理解しました。

SWANを愛する者にとって彼はレジェンドです。その意味は、彼が20年という時間をかけて、SWANを世界最高峰のブランドにしたからだけではありません。彼自身が心から海を愛し、ヨットを愛する一人の真正なセーラーであることを誰もが知っていて、その謙虚な姿勢と優しい眼差しを敬愛しているからです。スピーチの中で、フェラガモ氏はなぜSWANを手放すのか。その

過去にも同じようなことがありました。来日中の彼との食事の席で、ファミリーでビジネスを成功させる秘訣に話がおよぶと、「私が暮らしているイタリア・フィレンツェにファミリーを連れてお越しください。来たら分かりますよ」と言うのです。

その後、私は家内や娘たち、孫たちを連れて、彼の暮らす街を何度となく訪ねています。フェラガモ家といえ「靴」が有名ですが、実際にはヨットやホテルなど数多くの事業を展開するコンツェルンを築いていて、彼はまさにイタリア映画を地で行く「ゴッドファーザー」でした。

極めてイタリア的だなと思ったのは、その考え方です。彼はファミリーで事業をやっているならば、必ずビジネスを支える希有な人材が出てくる。その「芽」を大切にすれば、必ずファミリーは活性化するというのです。彼はファミリーの絆を本当に大切にしていました。実際にフィレンツェまで足を運び、フェラガモ氏のビジネススタイルや普段着の生活を垣間見たから

海に浮かぶ「海上サウナ」

富士山を眺める海上サウナが
スペースキーポイント リビエラシーボニアマリーナに誕生

2/1(土)より
一般販売
開始

SPACE KEY POINT



ヨットマンの聖地に、新たなスポットが誕生した。日本では珍しい「海上サウナ」だ。海に浮かぶ、セルフロウリュできるテントサウナの熱気から飛び出し、そのまま海にダイブ。海風呂で深呼吸すれば、波に包まれ心と体がじんわりと解きほぐされる新感覚を味わえるだろう。海と富士山からパワーを受けるこの場所でのいはいは無重力チェアに身をゆだねたあなただけの至福な時間。

ご予約・詳細はこちら



サウナ後のご飯(舟飯)は、地産の新鮮な海の幸や山の幸に加え、湘南で「循環するリビエラ循環野菜」のBBQ。そして、真っ赤に染まるサンセット、満天の星空、森、海に抱かれ、自然と同期する。をコンセプトにしたグランピングホテル「スペースキーポイント」で迎える朝。湘南の大自然に包まれ、心も体も生まれ変わる旅へ。

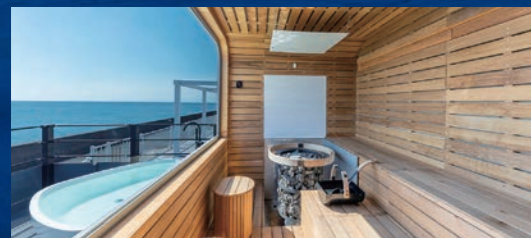
お問合せ:スペースキーポイント リビエラシーボニアマリーナ Tel.046-884-1006

リビエラリゾートクラブ会員は事務局までご連絡ください

リビエラ逗子マリーナでは サウナに入りながら海を眺める、「絶景海サウナ」

リビエラ逗子マリーナには「絶景海サウナ」を備えている。木のぬくもりにも包まれたフィンランド式サウナには大きな窓を設え、富士山と雄大な相模湾を見下ろすことができる。サウナ後は水風呂を設けた専用デッキに出て、海風でととのう。海まで数メートルの、宿泊者限定・完全貸切制のプライベートサウナ。

お問合せ:スペースキーポイント リビエラ逗子マリーナ Tel.0467-23-0005



ご予約・詳細はこちら



理由を語りました。それは何もお金、ビジネスの都合ではありませんでした。実は新たなオーナーは、メガヨット、スーパーヨットと呼ばれる最新鋭のヨットの製造、販売も手がける会社のCEOでした。その最先端のエンジニアリングをSWANに注入しようというのです。無論、ナウター・スワン社も世界の一握りの富裕層を相手にする高級ブランドであることは間違いないのですが、その未来を考えた時、メガヨットという新たな市場を有する会社に譲ることが何よりの選択だと考えたのでしよう。

15分にも及ぶ感謝のスピーチの後、正式に新オーナーに抜擢されたサンロレンツォ社のCEOマッシモ・ペロッティ氏が紹介されました。彼は、オーナーを退く決断をしたフェラガモ氏の功績と勇気を称え、そのスピーチに呼応するように、「自分もSWANを愛している」「このまま経営責任者として残って欲しい」とフェラガモ氏に訴えました。彼はその提案を受け入れ、壇上で新旧のオーナーが熱い抱擁を

交わしたのです。その映画のようなワンシーンは、ビジネスを超えた深い友情を彷彿とさせる崇高な場面でした。そして、SWANの新しい船出を祝福して万雷の拍手が起り、いつまでも続いたのです。ホテルに戻った私は、火照った身体を休めようとシャランパンを片手にバルコニーに出ました。見上げる空には満月が輝いていました。私は改めて尊敬する友人の選択と勇気に想いを馳せました。そして、この一夜を通じて彼のいう「コミュニケーション」の何たるかを悟ったのです。それは、SWANを愛するセーラーやクルー、そしてこの大会を40年支えているマリーナやヨットクラブ、スポンサー、関係者らが、一体となって作り上げてゆく過程の重要性でした。この大会を継続することは、想像を絶する強靱な意志が必要です。また、誰かが一人で旗を振ったから成立するものではないかもしれません。本当にSWANを愛していなければ、あの夜の厳粛な空気は醸成できないのです。

集まる機会はありません。文化も考え方も違う彼らがSWANの価値観の基に一堂に会し、ひとつのファミリーにも似た絆を実感する。これこそ、フェラガモ氏がいう、コミュニケーションの神髄でしょう。私も、あの夜に立ち会わなければ理解できなかったと思います。いずれにしても、このサルディニアでの5日間は夢のような時間でした。私もレースに参加したのですが、人生で最高のパッションと海へのロマンを味わうことができ、地中海の空は抜けるように青く、眩しく、太陽の日射しには夏の名残を感じました。実際には借りたヨットがエンジントラブルに見舞われるなど、アウエーの地ならではの洗礼をいくつも受けることになるのですが、それも含めて私にとっては人生の最終章を語るに相応しい大冒険でした。大会期間中、SWAN68をお借りしたオーナー船長のフアビオさんに心から感謝しています。これまでの人生では味わうことができなかった別次元の夢のような時間。身を委ね、没頭し、かけがえのない糧を得ることができました。



そして、次の目標を確認することができました。2025年11月、リビエラ逗子マリーナを舞台に「Riviera Swan Asia Regatta」を開催することが決定したのです。これは、フェラガモ氏やCEOジョバンニ・ポマティ氏、CCOバリー・アシュモア氏、国際レース責任者フェデリコ・ミケッティ氏に私から提案したのですが、彼らはアジア開催を大歓迎。総力をあげてバックアップすると約束してくれました。改めてお互いの信頼関係が深まり、その海を越えた絆がより強固になっていくことを確認できた瞬間でした。

雄大な富士の山を背景に何艇ものSWANが相模湾を走る日を夢見て。今年も私の挑戦は続きます。

料亭「白雲閣」からリビエラ東京 75年の歩み

戦後まもない1950年、池袋に突如姿を現した料亭「白雲閣」。おもてなしの心と伝統を受け継ぎ「磨き上げ」の精神も宿し、屋号を「リビエラ東京」と改めて進化を続けた75年の歴史を、写真と共に辿る。



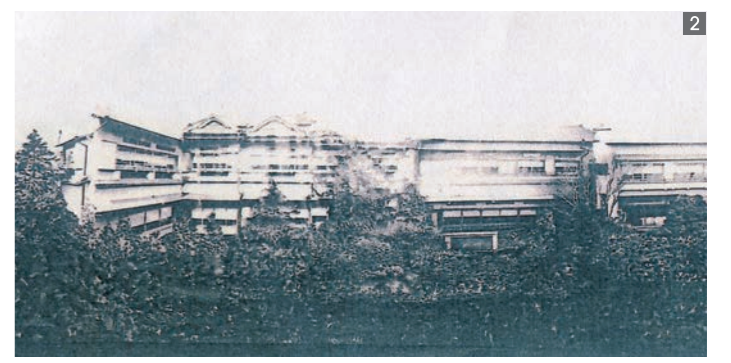
野心あふれる若き事業家の堀江浅蔵が上京し、池袋に立ち上げた燃料問屋「福島屋」は大きく成長しました。しかし、召集され戦地から池袋に帰還し、目の当たりにした闇市やバラック、そして、極端な食糧不足で食べ物に安堵する人々の笑顔が、彼の職業観を一変させます。いずれ「贅を尽くした宴席」が求められる時代を見越し、富士山にかかる白雲を望める料亭「白雲閣」を開業。その先見の明と行動力は、目を見張るものがありました。



深い悲しみの中でも「お客様に迷惑はかけられない」との強い信念のもと、従業員一同が奮起。無事だった新館で翌日から営業を再開し、予約でいっぱいになる忘年会シーズンも、変わらぬおもてなしでお客様を迎え続けました。その3年後には、再建にともない1500坪の拡大を果たし、大小32室を設け、滝と庭園を備えた



絢爛豪華な大宴会場もオープン。常連客には江戸川乱歩氏をはじめとする著名な作家や評論家、大蔵大臣を歴任した小笠原三九郎氏らが名を連ねました。さらには、高松宮殿下のご来臨を賜り一躍話題に。滝のある庭を愛でつつお風呂を浴び宴に興じるラグジュアリーな宴会スタイルは評判を呼びました。城北随一の料亭「白雲閣」のうわさは広がり、浅草や日本橋方面からも顧客が連日押し寄せ、文化人・学者・大企業の会合場所として人気を博しました。復興の成功を支えたのは施設だけでなく、仲居たちの心配りや料理人たちの四季折々の美食



1987 昭和62年 1981 昭和56年 1980 昭和55年 1960~79 昭和35~54年 1957 昭和32年 1956 昭和31年 1954 昭和29年 1950 昭和25年 1929 昭和4年

- 1** 新炭問屋「福島屋」 後の「白雲閣」創業者の堀江浅蔵が、福島県から上京し池袋4丁目に新炭問屋「福島屋」を開業。400名以上の従業員を抱え、大燃料工場を5つ営み、城北地域で五大燃料問屋に成長。
- 2** 3 新たに料亭を開業 召集され、戦後の闇市とバラックがひしめく池袋に帰還。「飲食こそ我が仕事」と職業観が変わり、料亭を開業。16坪以上の建築許可が下りなかった戦後、料亭と類似焼を免れており、総勢200余名の従業員たちに支えられ、翌日かからも一切休業をせずお客様を迎えた。
- 3** 4 5 奇跡の再興から盛業へ 旧館消失の痛手を全社一丸で克服した勢いは留まることなく復興へ。敷地面積を1500坪まで拡大し、大小32部屋を設け城北地域随一の料亭として再スタート。江戸川乱歩氏や小笠原大蔵大臣からも常客として何度も足を運んだ。池袋界隈はもちろんのこと、浅草や日本橋からも多くのお客様を集め盛業を極める。
- 4** 5 奇跡の再興から盛業へ 旧館消失の痛手を全社一丸で克服した勢いは留まることなく復興へ。敷地面積を1500坪まで拡大し、大小32部屋を設け城北地域随一の料亭として再スタート。江戸川乱歩氏や小笠原大蔵大臣からも常客として何度も足を運んだ。池袋界隈はもちろんのこと、浅草や日本橋からも多くのお客様を集め盛業を極める。
- 5** 6 高松宮殿下ご来臨 贅を尽くした大宴会場「鷹の間」をオープン。滝の庭を愛でつつお風呂を浴びてから宴に臨むラグジュアリーなスタイルは反響を呼び、昭和天皇の弟君・高松宮殿下ご来臨の栄に浴す。
- 6** 7 高度経済成長に伴いハイクラス層の会合処としての需要が高まる 老舗としての実績と信頼は厚く、東京オリンピックの開催を機に、日本文化の風情に割烹業の行き届いたサービスと、至便な立地が文化人、学者、諸官庁や大企業の重要な会合処として人気を博す。この当時から地域の方々が多く来館、地元との繋がりを大切にしていた。
- 7** 8 温かいものは温かいうちに新しい食文化の開始 先付けの宴会料理から、料亭の強みを活かし、一品一品もてなす「会席料理」に切り替える。常に新しい食文化を追求し、グルメ志向の高い顧客層に好評を博し、国内の宴会や婚礼業界へも浸透していった。
- 8** 9 「ワインで会席」がスタート 日本料理には日本酒を合わせるという概念を超え、一品ずつワインとのマリアージュで楽しむペアリングワインを提案。その後2015年までロングランのイベントとして継続する。
- 9** 初めての洋間「鳳来の間」完成 洋風化を先取りし、大広間を日本初のフローリングのバンケットに改装。パブル景気も後押しし、爆発的な人気となる。これを皮切りに毎年8月に各フロアをリニューアルしていく。

Topics “おもてなしの心”がパイオニアをつくる

料亭「白雲閣」から「リビエラ東京」は、集いの場を提供し続けるとともに、先駆者として日本の宴会文化を牽引してきました。それは、新しいことに挑戦したいという気持ちからではありません。すべて「どうしたらよりお客様が喜んでくださるか」「感動を届けられるか」を大切に、一つひとつ試行錯誤を重ね、「おもてなしの心」のもと、固定概念を打ち破る勇気と決断によるものでした。その一部をご紹介します。

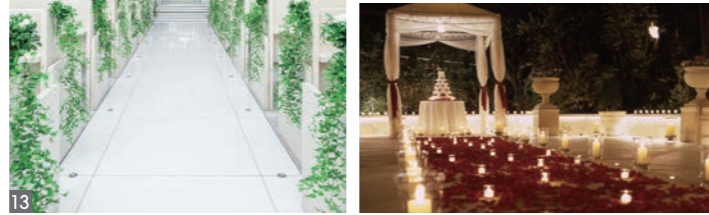
旧豪族御殿の移設
戦後、料亭「白雲閣」開業に際し、敗戦から間もない日本では厳しい物資統制が敷かれ、16坪以上の新築は建築許可が下りなかった。贅を尽くした宴席こそが、今後求められると見越した堀江浅蔵は、楼閣のような立派な建物が必要と考え、建物の移設を閃き、総檜造りの古い名主屋敷を上諏訪から移設した。

日本料理から「会席料理」へ
高まるグルメ志向に応え、従来の先付けで提供していた宴会料理から「温かいものは温かいうちに。冷たいものは冷たいうちに」提供する手法への転換。

新しい食文化の提案と普及
日本料理には日本酒が当たり前とされていた時代に、「ワインで会席」と銘打ち、ワインと日本料理のマリアージュイベントを開催。大人気となり、34年のロングランイベントとして愛された。

日本初フローリングのバンケット完成
バンケット完成に伴い、円卓もいち早く導入。円卓中央に照明が当たる仕組みを取り入れ、それに合わせた演出や装花も提案。後のレストランウェディングブームの先駆けとなる。

カラーやテーマを取り入れたオリジナルウェディング
結婚式は「白」という固定概念を取り払い、お客様の“自分たちらしさ”を求める声に応え、日本で初めてカラークロスを取り入れた。



料亭「白雲閣」からリビエラ東京 75年の歩み

など「愛あふれるおもてなし」で、
確固たる基盤を築き上げました。
浅蔵の志は1994年、義息子
であり、リビエラグループ会長の
渡邊に受け継がれ、リビエラカン
トリークラブの世界が認めるホス
ピタリティと融合。渡邊が「白雲閣」
を引き継いでから早31年、大がかり
なりリニューアルを毎年重ねながら、
宴席や結婚式、グルメなど常に
時代のニーズを先取りした変化
を遂げてきました。一貫して根底
にあるのは「お客様に喜んでいただ
きたい」という一念。それは現在
も未来も揺るぐことなく、リビエラ
のおもてなしとして連綿と受け継
がれていきます。
地上3階地下1階の木造建築で、
75年の長きにわたり皆様をお迎
えできたのは、リビエラに宿る「磨
き上げの精神」で施設を磨き続け
た従業員たちの努力の賜物です。
そしてこの度、料亭「白雲閣」に始
まったリビエラ東京(池袋)は、75
周年を節目に未来を見据えた再
開発に入ります。これまでご愛顧
いただいたお客様、そして支えて
くれた従業員、取引先、地域の皆
様など全ての方に心より感謝を
申し上げます。

2025 令和7年 2018 平成30年 2017 平成29年 2016 平成28年 2013 平成25年 2012 平成24年 1999 平成11年 1995 平成7年 1994 平成6年 1990 平成2年

2025 開業75周年、新たなおもてなしの形へ
開業75周年の節目に、再開発へ。時代を見据えた変革の一環として、池袋の未来づくりに貢献するまちづくりを目指しています。

17 「茶寮リビエラの庭」開業
滝の水音、木々のざわめきや鳥のさえずりをBGMに、都会の喧騒を忘れる緑豊かな庭を眺めながら、産地直送の旬な厳選素材から成る「レトロモダンな和」をコンセプトにした和食のレストラン。

「国際アート・カルチャー都市とし」に貢献
未来を担う若者や、若手アーティストの夢の実現を支える。立教大を起用した「湘南ビーチFM サテライトスタジオ」の開設や、音楽イベント「フォレストジャズ」「ランチタイムコンサート」もスタート。

16 リオープンで都会の杜に
3ヶ月間休業し大規模改装を経てリオープン。新たにガーデンゲートを設け、プライベート空間を強調。滝を復活させ、都会の中に緑豊かな森を感じる空間へと生まれ変わる。

15 「リビエラカフェ グリーンスタイル」開業
自社菜園の野菜やハーブを用いたガレットが人気で土日は行列もできるほど。時代を先取りした健康志向のグルテンフリーパンや、アレルギー物質をすべて取り除いたバリアフリーパンなどの提供も話題に。

14 木造3階建築の顔 エントランス改修
毎夏の改装時に補強を施してきた木造3階建ては頑丈で、東日本大震災の際でも瓦が少し落ちる程度の被害のみであった。安全のためと、時代に合わせてエントランスを改修。

12 13 タイプの違うチャペルが誕生し 人気を博す
イギリスの教会で100年以上愛用されていたアンティークのベンチを移設。「古き良きモノを磨き上げ次の世代へ」というリビエラの理念が随所に根付いている。その後2006年には、太陽の光が降り注ぎ純白の大理石のバージンロードが輝く、ガラス張りの独立型チャペルもオープン。タイプの違い2つのチャペルが人気を博す。

10 11 リビエラを冠に 屋号を変更
1989年に買収したL.A.にあるリビエラカントリークラブの世界水準のホスピタリティと、料亭「白雲閣」のおもてなしを融合。リビエラを冠にした屋号に変更。

リビエラ会長・渡邊が 経営を引き継ぐ
白雲閣の経営を、義息子の現リビエラグループ会長・渡邊昇が引き継ぐ。堀江浅蔵のおもてなしの心と、湯河原吉浜海岸の埋立地事業による観光への先見性は次世代へと受け継がれていく。

5大結婚式場として 注目を浴びる
明治記念館、椿山荘、八芳園、日本閣とならび、白雲閣が「日本5大結婚式場」の一角として頭角を現す。全国各地に白雲閣のビジネスモデルを用いた専門式場が増える。

(特例認定)NPO法人 リビエラ未来創りプロジェクト



未来を担う子どもたちのために、地球の源である豊かな海を守り次世代へと引き継ぐ活動を行っています。海洋ごみ対策や藻場再生によるブルーカーボンベルト®の構築、SDGs作品マンガ大賞の公募展、コンポスト活用による食品廃棄ゼロエリアを三浦半島に創出、国際環境認証「ブルーフラッグ」などを通じて、サステナブルな海辺のまちづくりを目指した活動と環境教育を展開しています。これらの活動は、地元団体・企業や住民との協働、さらには相模湾沿岸13自治体と連携し、地域振興、ブルーエコノミーの推進に貢献しています。特に「LOVE OCEANプロジェクト」には、日本各地や海外、さらにはスポーツ界からも多くの参画を得ており、2023年はG20とのコラボレーションも果たし、日本国環境省・インド大使館と連携して世界的な活動の一端を担うことができました。

※2024年12月23日に神奈川県より「特例認定NPO法人」の認定を受けました。これにより当法人へのご寄付は税制優遇の対象となりました。



詳細・ご寄付はこちら



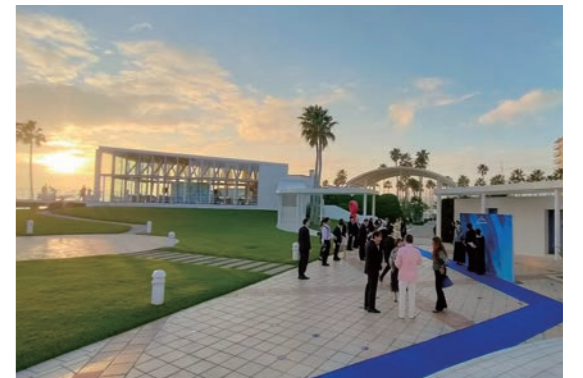
リビエラチャリティガラパーティー2024 @リビエラ逗子マリーナ

「海」と子どもたちのために

未来を担う子どもたちと地球の源である海を守るために、リビエラ逗子マリーナで初開催された「リビエラチャリティガラパーティー2024」では、多くの共感と支援の輪を広げることができました。この特別な一夜には、日頃からリビエラのこれらの活動を応援する方々や、海を愛する方々が一堂に会しました。

マリーナから続くブルーカーベットを進むと、海のサンセットを望むプールサイドへ。ブラックタイやイブニングドレスを身に纏った参加者の皆さまは、海を臨むこの特別な空間で語らい、未来への希望を分かち合いました。

マリーナ事業開始当初から約20年にわたる海洋環境活動や環境教育の取り組みなどを「NPO法人リビエラ未来創りプロジェクト」理事長より紹介し、「一般社団法人 日本海洋アカデミー」代表理事の鈴木茂晴氏からも、これまで8千人を超える支援をしてきた海洋教育の重要性が語られ



ました。

日頃親交のあるピアニスト仲道郁代さんには、キャンドルの灯りに包まれた海を臨む会場で、サロンコンサートを開催いただきました。また、リビエラ逗子マリーナコンサートの開催いただきました。また、リビエラ逗子マリーナ料理長の伊藤康裕による豊かな湘南の恵みを提供したディナータイムは、参加者同士が未来へのビジョンを再確認する意味深いひとときでした。

ゲストからのパーティー参加費全額と当日のチャリティを通じて集まった多額のご支援は、「NPO法人リビエラ未来創りプロジェクト」および「一般社団法人 日本海洋

アカデミー」へ寄付され、海洋環境の保全・再生や海洋教育プログラムの推進に活用されます。参加者の中には、ガラパーティー翌日開催の「LOVE OCEAN」ビーチクリーンに参加されるなど、早速行動を起こされる方もいらっしゃいました。



一般社団法人 日本海洋アカデミー

海という大自然を舞台にした青少年育成を行っています。欧米ではヨットやセーリングが教育に取り入れられ人々に広く親しまれている一方、日本は海に囲まれた島国でありながら、数十年にわたり海離れが進み、さらにはマリンスポーツの普及も大きく遅れています。この現状をウェルビーイングの観点からも憂慮し、当アカデミーが提供する海洋プログラムでは、素晴らしさと脅威も含めた海の雄大さを学ぶことを大切にしています。また、持続可能な社会に向けた環境意識とグローバルな視点を育むリーダーシップ教育を実施し、2023年までで8,300人の卒業生を輩出しています。ヨットという環境に優しい乗り物を通じた体験は、学校教育では得られない貴重な学びの場として広く支持されています。



詳細はこちら

Celebration of Life

リビエラの海洋葬

新たな旅立ち

リビエラの海洋葬とは

「大好きだった海や自然に還りたい」という故人様の想いや、故人様への尽くしきれないご遺族の温かい想いがあふれる、新しいお見送りの形です。

湘南の海から旅立った故人様は、黒潮に乗り、
ハワイ、アメリカ大陸、アフリカと世界の海を巡り、
再び湘南の海に戻ってきます。

皆様が集うたびに、故人様が紡いできた絆が永遠に続きます。

海を見れば故人様を思い、そして、

風や空気となった故人様をどこでもいつでも身近に感じていただけます。

お客様の声

海が大好きだった父の旅立ちを家族で見送る瞬間、より絆が深まったような気がします。ここから父は世界を旅するんですね。また1年後会いに来ます。(参列者様)

葬儀はあっという間でしたが海洋葬は時間もゆったりと流れ、見送った実感がわきました。船の操縦も体験でき、孫との忘れられない思い出ができました。(参列者様)

ご遺族と共に本当に感動的な時間を過ごすことができました。船内では素敵な写真をたくさん撮られていました。今後もぜひご紹介していきたいです。(葬儀社のご担当者)

リビエラでは待ち時間に談話したり、帰港後すぐに皆さまで食事できる場所が同じ敷地内にあることが魅力です。ご年配の方には特に喜ばれました。(葬儀社のご担当者)



リビエラが提案する 湘南リゾートで味わう 上質なショーケース

リビエラ逗子マリーナでは、海でのラグジュアリーな時間と船のある上質なライフスタイルを提案するため、さまざまなパーティーを開催しています。昨春には、スイスの芸術時計「フランクミュラー」やイギリスが誇る名車「マクラーレン」が登場。そして秋には、イタリアの極上カシミア「ファルコネーリ」、象徴的な名車「フェラーリ」と「メルセデスAMG」など、多彩なラグジュアリーブランドが集合しました。

ハーバー直結の会場「マリー



ナテラス」では、マリーナ越しに望む富士山や江の島の絶景を背景に、シャンパンやカクテル、フィンガーフードで招待客をお迎え。プレミアムなポート体験をはじめ、ジャズの生演奏が彩るパーティーでは、時間とともに移りゆくサンセットの美しさに酔いしれました。海でのパーティーや船のある暮らしを、楽しみながら体感しつつ、海を愛する人たちの社交の場としても有意義な時間をお過ごしいただきました。今年も、新たな企画や洗練されたコンテンツをご用意し、皆さまをお迎えいたします。どうぞご期待ください。



リビエラの海洋葬
新たな旅立ち

お問合せ
☎ 03-5474-8008 ✉ Info-tabidachi@riviera.co.jp

リビエラ逗子マリーナ：神奈川県逗子市小坪5-23-9
東京オフィス：東京都港区南青山3-3-3 リビエラ南青山ビルA館6階



2026年
創業
100周年2028年
L.A.五輪
ゴルフ競技
開催地

タイガー・ウッズが大会ホストを務める
「ジェネシス・インビテーション」。
「アーノルド・パーマー・インビテーション」や
全米オープン選手権の前哨戦とされる
ジャック・ニコラス主催の「ザ・メモリアルトーナメント」と
同等の格付、準メジャーの“招待試合”として
高い注目を浴びています。

Genesis Invitational

at THE RIVIERA COUNTRY CLUB

2025. 2/13 Thu. ~ 16 Sun.



2025年2月13日(木)から16日(日)までの4日間、
PGAツアー「ジェネシス・インビテーション」が
今年もリビエラカントリークラブで開催されます。

2024年優勝者
松山英樹

TV観戦をお楽しみください。

TV放映スケジュールは、オフィシャルサイトに掲載します。



2025
No.26

リビエラマガジン

発行=株式会社リビエラ
編集・制作=リビエラマガジン編集部

2025年1月発行
〒107-0062 東京都港区南青山3-3-3 リビエラ南青山ビル TEL.03-5474-8120 www.riviera.co.jp



THE RIVIERA COUNTRY CLUB